

令和5年度 文化観光局 予算概要について

5年度は、コロナ禍による交流人口の減少や住民同士のつながりの希薄化など、複雑・多様化する社会課題を踏まえ、文化観光施策を通じた賑わい創出と地域コミュニティの活性化に取り組み、都市の活力を生み出すことで、「選ばれる都市」「住みたい・住み続けたいまち」の実現を目指します。

文化観光局主要事業

1 市民の文化芸術活動の支援と環境整備 [P4]

次世代を担う子どもたちの豊かな創造性や感受性を育むための文化芸術体験機会の充実と、市民の皆様やNPO法人等が主体となって行う文化芸術活動の支援により、地域コミュニティの活性化につなげ、市民の皆様的心豊かな生活の実現を目指します。

また、文化施設の運営を通じて、文化芸術を身近に親しむ機会の提供や様々な魅力の発信とともに、地域特性等に応じた区民文化センターの整備や本市の文化施策の拠点である横浜美術館、横浜能楽堂の長寿命化に向けた大規模改修を進めます。

2 文化芸術創造都市による街の賑わい創出 [P6]

リニューアルオープンする横浜美術館等を会場とする現代アートの国際展の開催や都市の新たな夜景を街ぐるみで創り出す創造的イルミネーション、文化芸術を通じた国際交流の展開により、都市の魅力を高め、横浜のプレゼンスの向上と街の賑わいの創出につなげます。

また、歴史的建造物や公共空間等を活用し、創造的な人材や企業・地域との協働の推進により、創造性を生かしたまちづくりを進めます。

3 横浜の魅力を生かした観光コンテンツの創出と国内外からの誘客促進 [P8]

横浜ならではの魅力的な観光資源に加え、集積の進むグローバルブランドホテルや音楽アリーナ等と連携し、戦略的な誘客プロモーションを一層強化します。

また、訪日需要の高まりを捉え、インバウンド獲得に向けて積極的に施策を展開します。

さらに、活気にあふれ、市民が誇れる観光・MICE都市の実現に向け、DMOを中心に多様な関係者を巻き込んだ体制を構築し、専門性の高いマーケティング、効果的なプロモーションなどを行うことで市内経済の活性化に取り組みます。

4 グローバルMICE都市としての競争力強化 [P10]

アフターコンベンションの充実等、参加者増・観光消費額増につながる魅力づくりや、関連産業育成・ビジネス機会拡大に向けた取組を推進することで、市内経済の活性化を図ります。

あわせて、経済効果の高い中大型の国際会議・医学会議等の誘致を加速し、グローバルMICE都市としての競争力を強化します。

お問合せ先		
文化観光局総務課長	相馬 美輝	Tel 045-671-4346

文化観光局 お問合せ先一覧

頁	事業名	担当	電話番号
2	令和5年度 文化観光局予算案について	総務課長 相馬 美輝	671-4346
4	1 市民の文化芸術活動の支援と環境整備		
4	1(1) 芸術文化教育プログラム推進事業	文化振興課長 鬼木 和浩	671-3703
4	1(2) 文化施設運営事業	文化振興課施設担当課長 檜崎 和雄	671-3860
5	1(3) 文化施設整備事業	文化振興課修繕担当課長 吉田 直人	671-4376
5	1(4) 横浜能楽堂大規模改修事業	文化振興課施設担当課長 檜崎 和雄	671-4376
5	1(5) 横浜美術館大規模改修事業	文化振興課修繕担当課長 吉田 直人	671-3860
6	2 文化芸術創造都市による街の賑わい創出		
6	2(1) 横浜トリエンナーレ事業	文化プログラム推進課担当課長 丸山 晶子	671-4310
7	2(2) 創造的イルミネーション事業	創造都市推進課創造まちづくり担当課長 長谷部 千晶	671-4241
7	2(3) 創造都市推進事業	創造都市推進課長 新谷 雄一	671-3425
7	2(4) 創造限界形成事業	創造都市推進課担当課長 倉持 知子	671-2277
8	3 横浜の魅力を生かした観光コンテンツの創出と国内外からの誘客促進		
8	3(1) 戦略的誘客プロモーション事業	観光振興課集客推進担当課長 酒井 理子	671-4232
9	3(2) 戦略的賑わい創出事業	観光振興課集客推進担当課長 酒井 理子	671-4232
9	3(3) 三溪園施設整備等支援事業	観光振興課長 斎藤 信明	671-3940
9	3(4) DMO推進事業	観光振興課長 斎藤 信明	671-3940
10	4 グローバルMICE都市としての競争力強化		
10	4(1) MICE誘致・開催支援事業	MICE振興課長 梶 晃三	671-4233
10	4(2) 20街区MICE施設整備運営事業	MICE振興課施設担当課長 坂田 和行	671-4262



令和5年度

予算概要

文化観光局

目 次

	ページ
I 令和5年度 文化観光局予算案について	2
○予算額の概要	
○予算編成の考え方	
1. 「選ばれる都市」を目指す文化観光施策の推進	
2. 横浜市中期計画2022～2025と文化観光局予算との関係	
II 令和5年度 文化観光局 主要事業	4
1 市民の文化芸術活動の支援と環境整備	4
(1) 芸術文化教育プログラム推進事業	
(2) 文化施設運営事業	
(3) 文化施設整備事業	
(4) 横浜能楽堂大規模改修事業	
(5) 横浜美術館大規模改修事業	
2 文化芸術創造都市による街の賑わい創出	6
(1) 横浜トリエンナーレ事業	
(2) 創造的イルミネーション事業	
(3) 創造都市推進事業	
(4) 創造界限形成事業	
3 横浜の魅力を生かした観光コンテンツの創出と国内外からの誘客促進	8
(1) 戦略的誘客プロモーション事業	
(2) 戦略的賑わい創出事業	
(3) 三溪園施設整備等支援事業	
(4) DMO推進事業	
4 グローバルMICE都市としての競争力強化	10
(1) MICE誘致・開催支援事業	
(2) 20街区MICE施設整備運営事業	
◆トピックス 「次世代育成」・「共生社会実現」の取組◆	11
III 令和5年度 文化観光局予算案総括表	13
IV 予算科目別内訳	14
1 文化観光総務費	14
2 文化芸術創造都市推進費	15
3 文化プログラム推進費	18
4 観光MICE振興費	19

I 令和5年度 文化観光局予算案について

予算額の概要

令和5年度の文化観光局の一般会計予算額は、180億7,125万円、対前年度44億7,804万円(19.9%)の減となっています。

主な減額理由は、横浜みなとみらいホール大規模改修事業の終了によるものです。

区分	5年度予算額	4年度予算額	増減
一般会計	180億7,125万円	225億4,929万円	△44億7,804万円 (△19.9%)

(内訳は 13 ページの文化観光局予算案総括表を御覧ください。)

予算編成の考え方

1. 「選ばれる都市」を目指す文化観光施策の推進

5年度は、コロナ禍による交流人口の減少や住民同士のつながりの希薄化など、複雑・多様化する社会課題を踏まえ、文化観光施策を通じた賑わい創出と地域コミュニティの活性化に取り組み、都市の活力を生み出すことで、「選ばれる都市」「住みたい・住み続けたいまち」の実現を目指します。

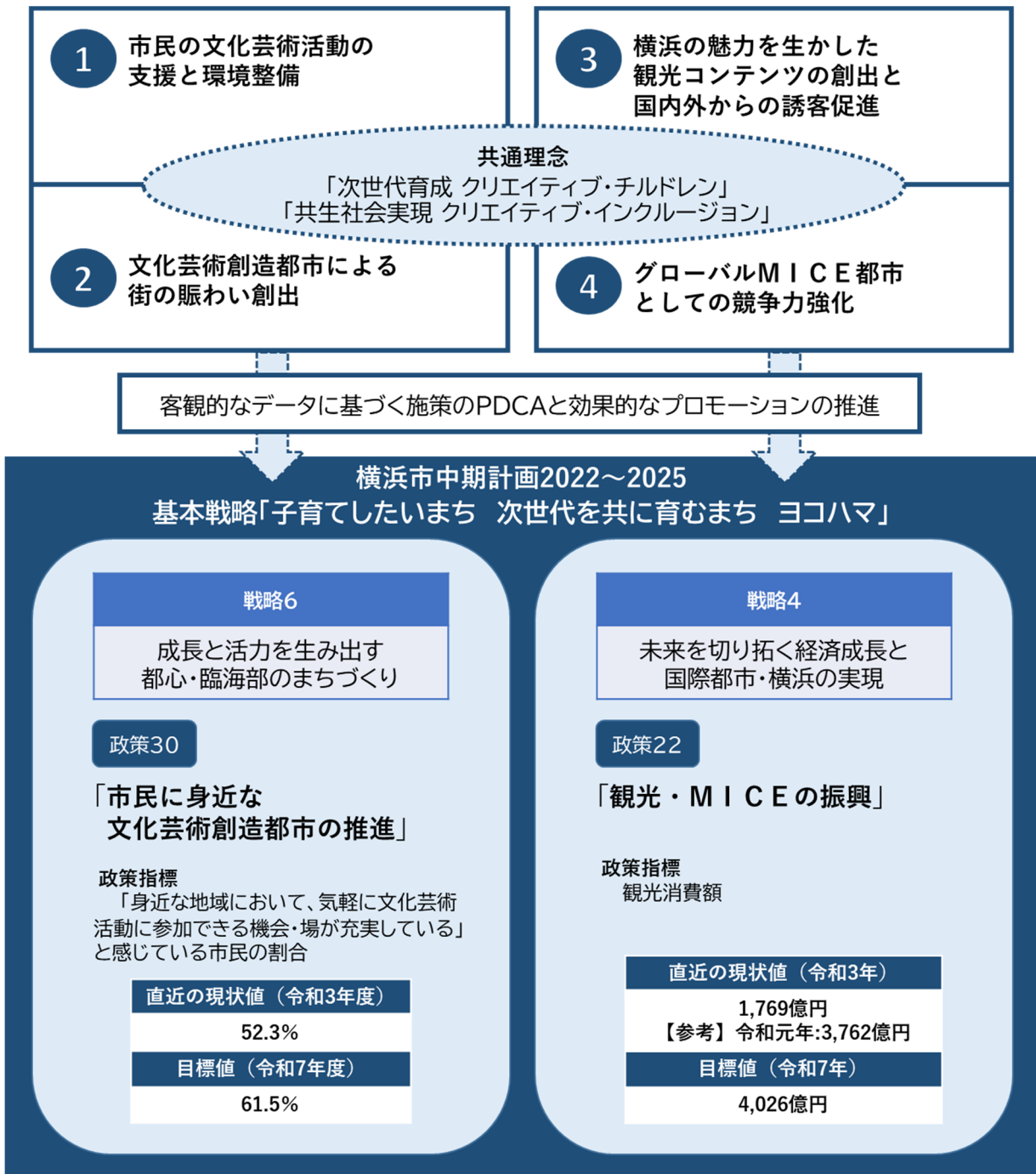
文化芸術創造都市施策では、子どもたちの豊かな創造性や感受性を育むため、学校や地域で文化芸術に親しむ機会の拡充を図るとともに、地域特性等に応じた区民文化センターの整備や機能強化など、文化芸術活動の基盤づくりを進め、ファミリー層をはじめとする市民の皆様の心豊かな生活の実現と地域コミュニティの活性化につなげます。また、リニューアルオープンする横浜美術館等を会場とする現代アートの国際展「第8回横浜トリエンナーレ」や、ダイナミックな光と音楽の演出で都市の新たな夜景を街ぐるみで創り出すイルミネーション事業「ヨルノヨ」などを開催し、都心臨海部における都市空間の優位性と文化芸術の創造性を生かした横浜らしい魅力を創出します。

観光・MICE施策では、DMOを中心とした多様な関係者による推進体制を構築し、マーケティングに基づく戦略的なプロモーションによる国内外からの誘客促進や、経済効果の高い中大型の国際会議・医学会議等のMICE誘致・開催支援を進めるとともに、持続可能な観光・MICE都市の実現を目指します。また、音楽アリーナの集積等を契機に、イベント主催者や商業施設等と連携した賑わい創出の仕組みづくりや、アフターコンベンションの充実に取り組み、来訪者の市内宿泊促進・回遊性向上や観光消費拡大につなげます。

これらの施策の連携により、相乗効果を生み出すよう、局一丸となって推進していきます。

2. 横浜市中期計画 2022～2025 と文化観光局予算との関係

横浜市中期計画2022～2025の基本戦略「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」の実現に向けて、「次世代育成（クリエイティブ・チルドレン）」と「共生社会実現（クリエイティブ・インクルージョン）」に取り組むことを分野を超えた局の共通理念に掲げ、4つの柱を中心に、デジタル技術の活用、SDGsや脱炭素を意識しながら施策を展開します。



Ⅱ 令和5年度 文化観光局 主要事業

1 市民の文化芸術活動の支援と環境整備

次世代を担う子どもたちの豊かな創造性や感受性を育むための文化芸術体験機会の充実と、市民の皆様やNPO法人等が主体となって行う文化芸術活動の支援により、地域コミュニティの活性化につなげ、市民の皆様の心豊かな生活の実現を目指します。

また、文化施設の運営を通じて、文化芸術を身近に親しむ機会の提供や様々な魅力の発信とともに、地域特性等に応じた区民文化センターの整備や本市の文化施策の拠点である横浜美術館、横浜能楽堂の長寿命化に向けた大規模改修を進めます。

(1) 芸術文化教育プログラム推進事業

3,494万円（前年度：3,494万円） p.16

芸術文化の力により、次世代を担う子どもたちの表現力やコミュニケーション力、創造力等を育成するため、学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽・演劇・ダンス・美術・伝統芸能等の体験ができる教育プログラムを実施します。

NPO法人や市内文化施設等が、学校の先生とアーティストのコーディネートを担当することで、各学校の目的に沿った効果的なプログラムの実施を支援します。



【峯小学校：美術(造形)のプログラムの様子】

(2) 文化施設運営事業

34億9,252万円（前年度：36億6,475万円） p.16

関内ホール、横浜にぎわい座、市民ギャラリー等、計15の文化施設において、市民の皆様の文化芸術に触れる機会の充実を図るとともに、次世代を担う子どもたちが多様な文化芸術に親しめるよう施設運営を行います。併せて、質の高い公演等を実施し、横浜の魅力を内外へ発信します。

市民の皆様が施設を安全に利用できるよう老朽化等に対応する修繕を実施するほか、利便性向上のため、キャッシュレス決済等の新たな機能を装備した市民利用施設予約システムを稼働します。

また、区民文化センターでは、鶴見区で天井耐震化に向けた工事を行います。



【久良岐能舞台「4歳からの能楽」】

(3) 文化施設整備事業

5億7,900万円(前年度:15億 292万円) p.17

市民の皆様が身近に文化芸術に接し、幅広い分野の文化芸術活動を活発に行うことができるよう、地域特性等に応じて文化施設(区民文化センター)を整備します。

港北区では、6年3月の開館に向けた準備を進めるとともに、床取得費の支払いを完了します。都筑区では、しゅん工に向けた工事の調整を引き続き事業者と行います。

また、金沢区では、金沢区における区民文化センター基本構想を踏まえた基本設計に着手します。

- ・港北区:床取得費等 5億3,620万円
- ・都筑区:設計施工アドバイザー等 380万円
- ・金沢区:基本設計費等 3,900万円



【港北区民文化センター ホール完成イメージ】

(4) 横浜能楽堂大規模改修事業

8,814万円(前年度:8,132万円) p.17

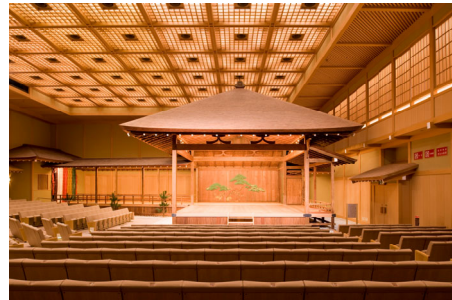
利用者の安全を確保するため、能舞台のある客席の天井の耐震化に向けた工事に加え、電気、空調、衛生設備等の長寿命化を図ります。

5年度は、工事に着手します。

総工事費:約29億円

工事期間:6年1月~7年度中

※工事による休館期間中は事務所を移転し、アウトリーチ事業等を実施予定



【横浜能楽堂本舞台「旧染井能舞台」】

(5) 横浜美術館大規模改修事業

67億4,668万円(前年度:62億9,530万円) p.17

美術作品を展示、保存するうえで重要な空調設備をはじめ、電気や衛生設備等の設備機器が老朽化しているため、長寿命化を図ります。

また、展示環境の改善や、高齢者、障害者等のためのバリアフリー対応、収蔵庫の拡張等を行います。

5年度は引き続き改修工事を行います。

総工事費:約120億円

工事期間:3年10月~5年度中

※工事による休館期間中は「プロット48」(みなとみらい21 中央地区48 街区)等で市民向けワークショップ等を実施



【横浜美術館 外観】

リニューアルオープンする横浜美術館等を会場とする現代アートの国際展の開催や都市の新たな夜景を街ぐるみで創り出す創造的イルミネーション、文化芸術を通じた国際交流の展開により、都市の魅力を高め、横浜のプレゼンスの向上と街の賑わいの創出につなげます。

また、歴史的建造物や公共空間等を活用し、創造的な人材や企業・地域との協働の推進により、創造性を生かしたまちづくりを進めます。

(1) 横浜トリエンナーレ事業

拡充

4億1,500万円（前年度：1億2,500万円） p.18

我が国を代表する現代アートの国際展、「第8回横浜トリエンナーレ」を開催します。

ひらかれた現代アートの祭典として、ファミリー層や将来を担う子どもたちが気軽にアートに触れる機会を提供することで、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成に寄与します。

また、地域の企業・団体と協力し、みなとまち横浜の歴史や景観などのリソースをこれまで以上に活用することで、都心臨海部のサテライト会場などを回遊しながら楽しめる展覧会とし、街に賑わいを創出します。

【第8回横浜トリエンナーレ 概要】

開催期間：6年3月15日（金）～6月9日（日）（約80日間）

会場：横浜美術館 ほか

アーティストック・ディレクター：リウ・ディン（刘鼎）と

キャロル・インホワ・ルー（盧迎華）

(c)大塚 敬太



【ヨコハマトリエンナーレ 2020
学校団体鑑賞の様子】



【エヴァ・ファブレガス
《からみあい》2020
ヨコハマトリエンナーレ 2020 展示風景】

(2) 創造的イルミネーション事業

4 億円（前年度：3 億 8,800 万円） p. 15

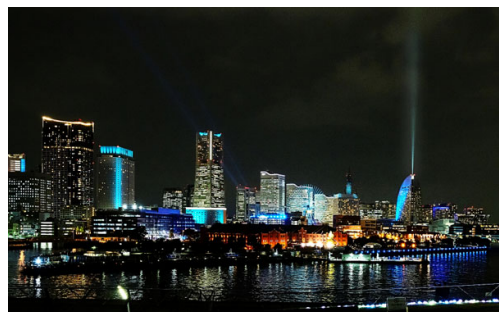
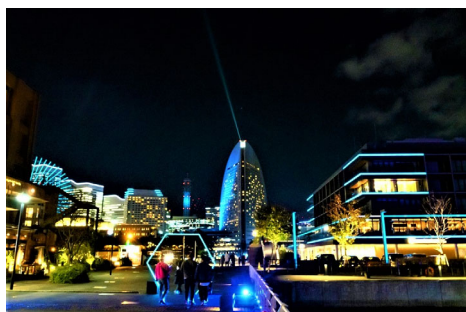
横浜のナイトタイムエコノミー活性化の契機とするため、都心臨海部において先端技術を用いた光と音楽の演出により、横浜ならではの港の夜景を官民一体で創出します。

よりダイナミックな演出とするため、参加施設数を増やすとともに、イベントと併せ、来場者に夜の横浜を楽しんでいただけるよう、地域のイルミネーション等と連携した街の回遊促進の取組も実施します。

【ヨルノヨ 概要】

開催期間：5 年 11 月下旬～6 年 1 月上旬（予定）

会 場：都心臨海部（ビューポイント 大さん橋 等）



【街全体の光の演出風景（令和 4 年度）】

(3) 創造都市推進事業

拡充

6,204 万円（前年度：3,554 万円） p. 15

国内外の舞台芸術関係者によるプログラムの制作・発表、交流の場として「横浜国際舞台芸術ミーティング（YPAM）」を開催し、都心臨海部の活性化を図るとともに、横浜発の舞台芸術を発信することで、「文化芸術創造都市・横浜」としてのプレゼンスを高めます。

また、日本最大規模のジャズフェスティバルである「横濱 JAZZ PROMENADE」の開催を引き続き支援し、民間事業者等と連携しながら、来街者の回遊性の向上や、街の賑わい創出につなげます。



【横濱 JAZZ PROMENADE
イセザキ・モール 1・2st. BRASS パレード】

(4) 創造界隈形成事業

2 億 8,620 万円（前年度：2 億 9,917 万円） p. 15

歴史的建造物や公共空間等、都心臨海部の地域資源を活用した創造界隈拠点として、旧第一銀行横浜支店、BankART1929（文化芸術創造発信拠点）、急な坂スタジオ（旧老松会館）、象の鼻テラス、初黄・日ノ出町地区（地域再生まちづくり）、THE BAYS（旧関東財務局横浜財務事務所）の運営・管理を行い、創造的な人材や地域との連携を通して、まちづくりを進めます。

また、旧第一銀行横浜支店は、新たな運営事業者を公募します。

横浜の魅力を生かした観光コンテンツの創出と 国内外からの誘客促進

横浜ならではの魅力的な観光資源に加え、集積の進むグローバルブランドホテルや音楽アリーナ等と連携し、戦略的な誘客プロモーションを一層強化します。

また、訪日需要の高まりを捉え、インバウンド獲得に向けて積極的に施策を展開します。

さらに、活気にあふれ、市民が誇れる観光・MICE都市の実現に向け、DMO(※3)を中心に多様な関係者を巻き込んだ体制を構築し、専門性の高いマーケティング、効果的なプロモーションなどを行うことで市内経済の活性化に取り組みます。

(1) 戦略的誘客プロモーション事業

拡充

2億4,864万円（前年度：1億1,946万円） p.19

◇国内誘客

リピーターをはじめ、旅行客の獲得に向けた市内観光施設の割引等の観光キャンペーンや旅行会社向けの地方セールスを実施します。常に新しい発見があり何度でも訪れたくなる横浜の魅力を発信するとともに、閑散期の需要喚起策等により、年間を通じた市内宿泊や回遊を促進します。

◇海外誘客

航空便や各国の訪日市場の回復状況などを踏まえ、OTA(※1)等を活用した戦略的なデジタルプロモーションを行い、市内へのインバウンド誘客を図ります。

また、観光レップ(※2)による情報発信や現地旅行会社へのセールス・プロモーション、商談会への参加等を実施します。加えて、クルーズ・フレンドリー・プログラムを実施し、クルーズ旅客等の市内回遊を促進します。

◇情報発信

横浜の観光公式ウェブサイト「横浜観光情報」やSNS等を活用して、国内外に向けて横浜の観光・MICEに関する情報を発信します。



【米国レップが参加した Cruise World 2022
フロリダ州で開催された、北米最大級のクルーズ専門見本市・商談会】



【OTAプロモーションイメージ（中国 Ctrip）】

(※1) OTA（オンライントラベルエージェント）：ホテル、航空券、国内外旅行の予約など、インターネット上で取り行う旅行会社。

(※2) 観光レップ(rep)：英語の Representative の略。代理店の意味合い。自治体や事業者の代理を旅行会社や広告代理店等に委託し、現地の海外旅行市場の調査分析や観光情報の発信等を行う。

(2) 戦略的賑わい創出事業

新規

7,900万円(前年度: —) p.19

音楽アリーナの集積等を契機に、多くの人が集まるイベントを活用した戦略的な宿泊・回遊促進策に取り組むことで、賑わいを創出し、市内経済の活性化に結び付けます。

コンサート、エンタテインメント、スポーツなどのイベント主催者や商業施設等の民間事業者と連携したプロモーションなどを行い、イベント前後の回遊を促進させるとともに、宿泊事業者と連携し、イベント開催時の宿泊につなげるなど、様々な事業者が参画し、賑わいを創出する仕組みづくりを進めます。

(3) 三溪園施設整備等支援事業

1億9,771万円(前年度: 1億8,241万円) p.19

重要文化財建造物の大規模修繕及び耐震対策工事を、工期を3期に分け、緊急度の高い建造物から実施しています。

5年度は、旧東慶寺仏殿及び月華殿の工事に対し支援します。

また、観光施設としての機能強化に向けた用途制限の緩和や、季節に応じた催事の創意工夫などの新たな魅力創出に取り組めます。



【旧燈明寺三重塔 (重要文化財)】



【5年に及ぶ修を終えた臨春閣 (重要文化財)】

(4) DMO推進事業

拡充

1億2,142万円(前年度: 2,650万円) p.20

登録DMOとなった(公財)横浜観光コンベンション・ビューローが中心となり、観光地域づくりフォーラムを開催し、多様な関係者を巻き込んだ体制を構築します。

また、人流データの分析や、来訪意欲調査等の様々な調査を実施するなど、DMOのマーケティング機能を強化し、戦略的な施策を展開します。

(※)観光地域づくり法人(DMO: Destination Management/Marketing Organization)

地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行うかじ取り役となる法人(観光庁定義)

アフターコンベンションの充実等、参加者増・観光消費額増につながる魅力づくりや、関連産業育成・ビジネス機会拡大に向けた取組を推進することで、市内経済の活性化を図ります。

あわせて、経済効果の高い中大型の国際会議・医学会議等の誘致を加速し、グローバルMICE都市としての競争力を強化します。

(1) MICE誘致・開催支援事業

3億8,591万円（前年度：8億1,089万円） p.20

◇MICE開催支援・受入環境整備

ウォーターフロントを活用するなど、横浜ならではの回遊ツアーや体験型コンテンツの造成などにより、MICE参加者の来訪を促すとともに、回遊性向上を目的としたアフターコンベンションの充実に取り組みます。

また、セミナー開催等による市内MICE関連産業の育成や商談会の実施など、市内事業者のビジネス機会の創出につなげます。



【「第8回アジア栄養士会議」
4年8月・ハイブリッド開催 於：パシフィコ横浜】

◇MICE誘致

海外におけるセールス活動や主催者とのネットワーク構築、主催者・参加者双方の来訪意欲を喚起するプロモーション等を強化するとともに、助成金等を活用して誘致活動を推進します。

◇MICE次世代育成事業

子どもたちが将来の進路について考える機会を提供するため、国際会議等の開催に合わせ、最先端の技術や情報に触れられる講演やワークショップ等を開催します。

◇MICE・観光集客等イベント支援

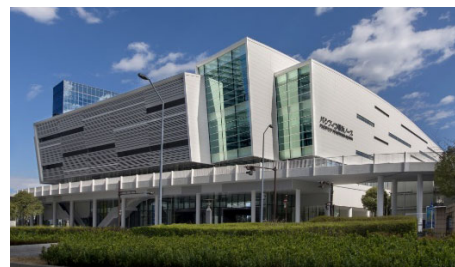
横浜の歴史と魅力を生かした大規模集客イベント等に対し、開催支援を行います。

(2) 20 街区MICE施設整備運営事業

32億9,799万円（前年度：32億9,790万円） p.20

「パシフィコ横浜ノース」について、PFI事業により維持管理及び運営を行います。

新たな顧客開拓・市場創出に取り組み、地域経済の発展・賑わい創出へ貢献します。



【パシフィコ横浜ノース 外観】

◆トピックス 「次世代育成」・「共生社会実現」の取組◆

文化観光局では、文化振興、創造都市、観光・MICEの各分野における、「次世代育成（クリエイティブ・チルドレン）」と、誰もが対等な関係で関わりあえる社会を目指す「共生社会実現（クリエイティブ・インクルージョン）」に取り組むことを共通理念として推進しています。

「次世代育成（クリエイティブ・チルドレン）」

子どもたちの豊かな創造性や感受性を育むため、学校や地域での文化芸術に親しむ機会の充実や、才能豊かな新進アーティストなど将来の芸術家を育成します。

また、国際会議の開催に合わせた研究者との交流など、次世代を担う子どもたちを育成する取組を推進します。

◆芸術文化教育プログラム推進事業【再掲】 p. 16

芸術文化の力により、次世代を担う子どもたちの表現力やコミュニケーション力、創造力等を育成するため、学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽・演劇・ダンス・美術・伝統芸能等の体験ができる教育プログラムを実施します。

◆クラシック・ヨコハマ推進事業 p. 16

国内屈指の若手演奏家に演奏機会を提供することを目的とし、国内最高峰の学生音楽コンクール「全日本学生音楽コンクール全国大会 in 横浜」を核に、様々なコンサートを開催します。



【「第76回全日本学生音楽コンクール全国大会 in 横浜」(毎日新聞社提供)】

◆横浜トリエンナーレにおける取組(横浜トリエンナーレ事業の一部) p. 18

子どもたちが気軽に参加できるワークショップの実施など、アートを通じて様々な表現に触れる機会を設けることにより、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成に寄与します。

◆文化施設における取組(文化施設運営事業の一部) p. 16

市民ギャラリーあざみ野では、親子が一緒に描いたりつくったりすることを楽しみながら自発的な意欲を育むことを目的とした「親子のフリーズゾーン」を行います。

また、久良岐能舞台では、4、5歳を主な対象として、能楽だけでなく、能舞台での礼儀作法を教える講座「4歳からの能楽」を行います。



【市民ギャラリーあざみ野「親子のフリーズゾーン」】

◆MICE次世代育成事業【再掲】(MICE誘致・開催支援事業の一部) p. 20

子どもたちが将来の進路について考える機会を提供するため、国際会議等の開催に合わせ、最先端の技術や情報に触れられる講演やワークショップ等を開催します。

◆映像文化都市地域貢献事業(映像文化都市づくり推進事業の一部) p. 15

市内に立地する東京藝術大学大学院映像研究科の高度な映像表現知識・技術を活用した市民向けの地域貢献事業を実施し、映像文化における次世代育成等を推進します。

「共生社会実現(クリエイティブ・インクルージョン)」

横浜市の文化芸術の創造性を生かしたまちづくりを踏まえ、障害・人種・国籍・宗教・年齢・性別等の様々な違いを超えて創造的に課題解決を図るとともに、誰もが対等な関係で関わり合い、社会や組織に参画するという考え方をもって事業を実施します。

◆横浜トリエンナーレにおける取組(横浜トリエンナーレ事業の一部) p. 18

新たな取組として、乳幼児連れの方なども気兼ねなく観覧できる「声を出しても良い観覧日」を設定するなど、誰もが現代アートを享受できる機会を創出し、相互理解や多様性を受け入れる豊かな社会の形成を目指します。

◆ユニバーサルツーリズムの推進(受入環境整備事業の一部) p. 19

障害の有無や年齢等に関わらず全ての方々が横浜観光を楽しめるよう、観光施設・宿泊施設のバリアフリー対応状況や、子育て世代に求められる授乳室等の情報、車椅子やベビーカーでも移動しやすいモデルルート等について情報発信を行います。

また、市内観光関連事業者向けセミナーを継続し、「心のバリアフリー」の浸透を図ることで、ユニバーサルツーリズムを推進します。

◆文化施設における取組(横浜美術館大規模改修事業及び文化施設運営事業の一部) p. 16, 17

横浜美術館の大規模改修工事では、展示室やレクチャーホール等に、よりスムーズにアクセスできるよう、それぞれに近接した位置にエレベーターを設置するなど、障害の有無に関わらず、誰でも利用しやすいように改修します。

また、吉野町市民プラザでは、市内の障害者ダンスチームや年齢やジャンルを超えたダンスを愛する団体が参加するダンスイベント

「FUN! FUN! FUN!」を開催します。



【吉野町市民プラザ「FUN! FUN! FUN!」】

Ⅲ 令和5年度 文化観光局予算案総括表

(単位：千円)

科 目	5年度 予算額	4年度 予算額	差 引 増△減	前年比 (%)	主 な 増 減 事 業
4款 文 化 観 光 費	18,071,245	22,549,290	△ 4,478,045	△ 19.9	
1項 文 化 観 光 費	18,071,245	22,549,290	△ 4,478,045	△ 19.9	
1目 文化観光総務費	1,142,676	1,243,873	△ 101,197	△ 8.1	<ul style="list-style-type: none"> ・調査分析事業 5,000千円増 ・職員人件費 △ 107,687千円
2目 文化芸術創造 都市推進費	11,843,267	15,771,413	△ 3,928,146	△ 24.9	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜美術館大規模改修事業 451,382千円増 ・横浜みなとみらいホール大規模 改修事業 △ 3,266,391千円 ・文化施設整備事業 △ 923,926千円
3目 文化プログラム 推 進 費	486,305	463,132	23,173	5.0	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜トリエンナーレ事業 290,000千円増 ・文化芸術による賑わい創出事業 61,455千円増 ・横浜芸術アクション事業 △ 327,956千円
4目 観光MICE 振 興 費	4,598,997	5,070,872	△ 471,875	△ 9.3	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略的誘客プロモーション事業 129,183千円増 ・MICE誘致・開催支援事業 △ 424,975千円 ・市内観光復興支援事業 △ 300,000千円

IV 予算科目別内訳

1	1 項 1 目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
					国・県	市 債	その他	一般財源
	文化観光 総務費	1,142,676	1,243,873	△101,197	—	—	30	1,142,646

横浜魅力づくり室

(1) 調査分析事業 **15,264千円** (前年度 10,264千円)

施策を効果的に実施し、市内の賑わい形成、経済の活性化、地域コミュニティ活性化、文化芸術によるまちづくりにつなげていくため、現状分析及び企画立案の基礎資料を収集します。

具体的には、市内の文化観光施設に関する認知度・訪問意欲等の把握や、他都市との比較による都市の魅力等に関する調査を実施します。

(2) 開港記念式典開催事業 **5,680千円** (前年度 5,680千円)

開港記念日（6月2日）に市民の皆様や市政関係者とともに開港を祝い、横浜港の歴史と先人の業績に敬意を表するため、開港記念式典を開催します。

総務部

(3) 総務費 **14,385千円** (前年度 12,895千円)

文化観光局職員の人材育成事業などを実施します。

(4) 職員人件費 **1,107,347千円** (前年度 1,215,034千円)

文化観光局職員の人件費を計上します。

1項2目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
				国・県	市債	その他	一般財源
2 文化芸術創造都市推進費	千円 11,843,267	千円 15,771,413	千円 △3,928,146	千円 103,047	千円 6,781,000	千円 75,614	千円 4,883,606

文化芸術創造都市推進部

(1) 創造界限形成事業 286,201千円 (前年度 299,167千円)

歴史的建造物や公共空間等、都心臨海部の地域資源を活用した創造界限拠点として、旧第一銀行横浜支店、BankART1929（文化芸術創造発信拠点）、急な坂スタジオ（旧老松会館）、象の鼻テラス、初黄・日ノ出町地区（地域再生まちづくり）、THE BAYS（旧関東財務局横浜財務事務所）の運営・管理を行い、創造的な人材や地域との連携を通して、まちづくりを進めます。

(2) アーツコミッション事業 34,360千円 (前年度 38,600千円)

文化芸術と企業・市民等の様々な主体をつなぐプラットフォームを形成し、子育て世代をはじめとした市民が文化芸術に触れる機会をつくと共に、都心臨海部の回遊性促進等を進め、文化芸術の持つ創造性をいかした賑わいづくりと国内外における文化芸術創造都市としてのプレゼンスを高めます。

(3) 創造的イルミネーション事業 400,000千円 (前年度 388,000千円)

横浜のナイトタイムエコノミー活性化の契機とするため、都心臨海部において先端技術を用いた光と音楽の演出により、横浜ならではの港の夜景を官民一体で創出します。

よりダイナミックな演出とするため、参加施設数を増やすとともに、イベントと併せ、来場者に夜の横浜を楽しんでいただけるよう、地域のイルミネーション等と連携した街の回遊促進の取組も実施します。

(4) 映像文化都市づくり推進事業 17,529千円 (前年度 18,519千円)

市内に立地する東京藝術大学大学院映像研究科が有する高度な映像表現知識・技術を活用した市民向けの地域貢献事業を引き続き実施することで、映像文化における次世代育成等を推進します。

(5) 創造都市推進事業 62,038千円 (前年度 35,538千円)

国内外の舞台芸術関係者によるプログラムの制作・発表、交流の場として「横浜国際舞台芸術ミーティング（YPAM）」を開催し、都心臨海部の活性化を図るとともに、横浜発の舞台芸術を発信することで、「文化芸術創造都市・横浜」としてのプレゼンスを高めます。

また、日本最大規模のジャズフェスティバルである「横濱JAZZ PROMENADE」の開催を引き続き支援し、民間事業者等と連携しながら、来街者の回遊性の向上や、街の賑わい創出につなげます。

(6) 芸術文化教育プログラム推進事業 **34,940千円** (前年度 34,940千円)

芸術文化の力により、次世代を担う子どもたちの表現力やコミュニケーション力、創造力等を育成するため、学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽・演劇・ダンス・美術・伝統芸能等の体験ができる教育プログラムを実施します。

NPO法人や市内文化施設等が、学校の先生とアーティストのコーディネートを担当することで、各学校の目的に沿った効果的なプログラムの実施を支援します。

(7) 地域文化サポート事業 **31,000千円** (前年度 33,000千円)

地域課題の解決にアプローチするため、文化芸術の持つ創造性をコミュニティや街の活性化と結びつける取組や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を公募し、支援します。

また、採択団体等のサポートのため、まちづくりなどの分野と文化芸術の関わりについて意見交換を行う研修や、事業紹介のための広報誌（季刊「ヨコハマアートサイト」）の発行、団体相互のネットワークづくりのための交流会などを実施します。

(8) クラシック・ヨコハマ推進事業 **9,000千円** (前年度 9,000千円)

国内最高峰の学生音楽コンクール「全日本学生音楽コンクール全国大会」の開催に合わせ、コンクール出場経験者をはじめ、国内屈指の若手演奏家に演奏機会を提供すること及び市民の皆様身近な場所で音楽を楽しんでいただくことを目的として、市内の様々な会場でクラシック音楽のコンサートを実施します。

また、コンクールでは、市民の皆様が選ぶ聴衆賞「横浜市民賞」を贈呈します。

**(9) ミュージック・マスタース・コース・
ジャパン推進事業** **5,000千円** (前年度 6,000千円)

次世代を担う演奏家の育成を目的に選抜された若手演奏家に対して、市内で演奏の機会を提供し、市民の皆様を招待します。

(10) 芸術文化支援事業 **33,900千円** (前年度 57,900千円)

音楽、美術、舞台芸術などの分野において、市内の文化芸術活動の基盤となる文化事業を支援します。

(11) 文化施設運営事業 **3,492,516千円** (前年度 3,664,752千円)

関内ホール、横浜にぎわい座、市民ギャラリー等の文化施設の運営及び修繕等を行うほか、キャッシュレス決済等の新たな機能を装備した市民利用施設予約システムを稼働します。

また、区民文化センターの天井耐震化に向けて、鶴見区で工事を行います。

○ 横浜美術館運営費	744,093千円
○ 横浜みなとみらいホール運営費	514,731千円
○ 横浜能楽堂運営費	183,070千円
○ 横浜にぎわい座運営費	221,884千円
○ 関内ホール等文化施設運営費	1,157,370千円
○ 区民文化センター天井脱落対策費	249,576千円
○ 次期予約システム開発費	132,004千円
○ 文化施設修繕費等	289,788千円

(12) 横浜美術館大規模改修事業 **6,746,683千円** (前年度 6,295,301千円)

美術作品を展示、保存するうえで重要な空調設備をはじめ、電気や衛生設備等の設備機器が老朽化しているため、長寿命化を図ります。

また、展示環境の改善や、高齢者、障害者等のためのバリアフリー対応、収蔵庫の拡張等を行います。

5年度は引き続き改修工事を行います。

なお、工事による休館期間中は「プロット48」等で、市民向けワークショップ等を実施します。

(13) 横浜能楽堂大規模改修事業 **88,140千円** (前年度 81,321千円)

利用者の安全を確保するため、能舞台のある客席の天井の耐震化に向けた工事に加え、電気、空調、衛生設備等の長寿命化を図ります。

5年度は工事に着手します。

なお、工事による休館期間中は事務所を移転し、アウトリーチ事業等の実施を予定しています。

(14) 文化施設整備事業 **578,997千円** (前年度 1,502,923千円)

市民の皆様が身近に文化芸術に接し、幅広い分野の文化芸術活動を活発に行うことができるよう、地域特性等に応じて文化施設（区民文化センター）を整備し、文化芸術創造都市の裾野を広げます。

港北区では、6年3月の開館に向けた準備を進めるとともに、床取得費の支払いを完了します。都筑区では、しゅん工に向けた工事の調整を引き続き事業者と行います。また、金沢区では、金沢区における区民文化センター基本構想を踏まえた基本設計に着手します。

○ 区民文化センター整備

- ・ 港北区：床取得費等 **536,197千円**
(新綱島駅前地区第一種市街地再開発事業の中での整備)
- ・ 都筑区：設計施工アドバイザー等 **3,800千円**
(都筑区における区民文化センター等整備予定地活用事業の中での整備)
- ・ 金沢区：基本設計等 **39,000千円**

(15) その他の文化振興事業 **22,963千円** (前年度 40,061千円)

横浜文化賞の贈呈のほか、指定管理者選定評価委員会の開催等を行います。

【終了事業】

(横浜みなとみらいホール大規模改修事業)

(前年度 3,266,391千円)

1項3目	本年度	前年度	差引	本年度の財源			
				国・県	市債	その他	一般財源
3 文化プログラム推進費	千円 486,305	千円 463,132	千円 23,173	千円 —	千円 —	千円 5,000	千円 481,305

文化プログラム推進部

(1) 横浜トリエンナーレ事業 415,000千円 (前年度 125,000千円)

我が国を代表する現代アートの国際展、「第8回横浜トリエンナーレ」を6年3月15日から6月9日までの約80日間、横浜美術館などを中心に開催します。

ひらかれた現代アートの祭典として、ファミリー層や将来を担う子どもたちが気軽にアートに触れる機会を提供することで、多様性を受け入れる心豊かな社会での形成に寄与します。

また、地域の企業・団体と協力し、みなとまち横浜の歴史や景観などのリソースをこれまで以上に活用することで、都心臨海部のサテライト会場などを回遊しながら楽しめる展覧会とし、街に賑わいを創出します。

(2) 文化芸術による賑わい創出事業 61,455千円 (前年度 —)

民間アリーナやホールなどの文化芸術資源の集積を生かし、民間事業者との更なる連携を進めることで、誰もが楽しめるアートイベントの開催などを検討し、街の賑わい創出、都市のブランディングを図ります。

(3) 日中韓都市間文化交流事業 8,000千円 (前年度 8,000千円)

「東アジア文化都市 友好協力都市協定」に基づいて、引き続き、中国泉州市及び韓国光州広域市と、アーティストや芸術団体の派遣・招へい等を通じた都市間文化交流を行います。

(4) 文化プログラム推進事業 1,850千円 (前年度 2,176千円)

横浜ならではの文化プログラムを推進するための事務経費等

【終了事業】

(横浜芸術アクション事業)

(前年度 327,956千円)

<主な財源創出の取組> 予算案記者発表資料 p. 19

～施策・事務事業の徹底した見直し～

事業名：横浜芸術アクション事業

財源創出の内容：2012年の事業開始以降、次世代育成・市民参加の取組や民間の機運醸成など一定の成果を得たことから、同事業を転換し、集積する文化観光資源をつなぎ合わせるなど、より一層のまちの賑わいの創出に向けた新たな事業を検討

4	1 項 4 目 観光 M I C E 振 興 費	本年度 千円	前年度 千円	差引 千円	本年度の財源			
					国・県 千円	市 債 千円	その他 千円	一般財源 千円
		4,598,997	5,070,872	△471,875	20,000	—	1,007,362	3,571,635

観光MICE振興部

(1) 戦略的誘客プロモーション事業 248,642千円 (前年度 119,459千円)

国内向けには、リピーターをはじめ旅行者の獲得に向けた市内観光施設の割引等の観光キャンペーンや、旅行会社向けの地方セールスを実施します。常に新しい発見があり何度でも訪れたいくなる横浜の魅力を発信するとともに、閑散期の需要喚起策等により、年間を通じた市内宿泊や回遊を促進します。

海外向けには、航空便や各国の訪日市場の回復状況などを踏まえ、OTA等を活用した戦略的なデジタルプロモーションを行い、市内へのインバウンド誘客を図ります。

また、観光レップによる情報発信や現地旅行会社へのセールス・プロモーション、商談会への参加等を実施します。加えて、クルーズ・フレンドリー・プログラムを実施し、クルーズ旅客等の市内回遊を促進します。

あわせて、横浜の観光公式ウェブサイト「横浜観光情報」やSNS等を活用して、国内外に向けて横浜の観光・MICEに関する情報を発信します。

(2) 受入環境整備事業 52,204千円 (前年度 47,182千円)

市内3か所の観光案内所を運営するとともに民間観光案内所を支援し、受入環境の向上を図ります。あわせて、観光案内所の運営手法検討に向けた実証実験を行います。

また、市内宿泊施設等のバリアフリー情報の発信や市内事業者向けセミナーを実施し、ユニバーサルツーリズムを推進します。

(3) 三溪園施設整備等支援事業 197,706千円 (前年度 182,414千円)

重要文化財建造物の大規模修繕及び耐震対策工事を、工期を3期に分け、緊急度の高い建造物から実施しています。

5年度は、旧東慶寺仏殿及び月華殿の工事に対し支援します。

また、観光施設としての機能強化に向けた用途制限の緩和や、季節に応じた催事の創意工夫などの新たな魅力創出に取り組みます。

(4) 戦略的賑わい創出事業 79,000千円 (前年度 —)

音楽アリーナの集積等を契機に、多くの人が集まるイベントを活用した戦略的な宿泊・回遊促進策に取り組むことで、賑わいを創出し、市内経済の活性化に結び付けます。

コンサート、エンタテインメント、スポーツなどのイベント主催者や商業施設等の民間事業者と連携したプロモーションなどを行い、イベント前後の回遊を促進させるとともに、宿泊事業者と連携し、イベント開催時の宿泊につなげるなど、様々な事業者が参画し、賑わいを創出する仕組みづくりを進めます。

(5) DMO推進事業 **121,423千円** (前年度 26,500千円)

登録DMOとなった(公財)横浜観光コンベンション・ビューローが中心となり、観光地域づくりフォーラムを開催し、多様な関係者を巻き込んだ体制を構築します。
また、人流データの分析や、来訪意欲調査等の様々な調査を実施するなど、DMOのマーケティング機能を強化し、戦略的な施策を展開します。

(6) 観光施設維持管理事業 **118,442千円** (前年度 108,681千円)

本市の観光振興を図るため、所管施設(横浜人形の家、横浜マリンタワー等)の維持管理・運営を行います。

(7) ヨコハマ・グッズ「横濱001」育成支援事業 **1,500千円** (前年度 1,503千円)

ブランドプロモーション等、販売促進につながる事業に対する支援を行うことで、横浜観光の魅力向上、市内経済の活性化を図ります。

(8) 観光振興事業 **38,584千円** (前年度 49,126千円)

国内外からの来訪者の実態を把握し、観光施策立案の基礎データとして活用するため、観光動態・消費動向調査を実施します。

また、横浜が官民一体で推進していく観光MICEの方向性を示すため、「横浜市観光MICE戦略」を策定します。

(9) MICE誘致・開催支援事業 **385,913千円** (前年度 810,888千円)

アフターコンベンションの充実等、参加者増・観光消費額増につながる魅力づくりや、関連産業育成・ビジネス機会拡大に向けた取組を推進することで、市内経済の活性化を図ります。

あわせて、経済効果の高い中大型の国際会議・医学会議等の誘致を加速し、グローバルMICE都市としての競争力を強化します。

また、横浜の歴史と魅力を生かした大規模集客イベントに対し、開催に向けて支援することで、街の賑わいを創出します。

(10) 減債基金積立金 **57,592千円** (前年度 58,016千円)

(株)横浜国際平和会議場貸付金について、利子収入を減債基金に積み立てます。

(11) 20街区MICE施設整備運営事業 **3,297,991千円** (前年度 3,297,903千円)

「パシフィコ横浜ノース」について、PFI事業により維持管理及び運営を行います。新たな顧客開拓・市場創出に取り組み、地域経済の発展・賑わい創出へ貢献します。

【終了事業】

(市内観光復興支援事業) (前年度 300,000千円)

(観光資源魅力アップ事業) (前年度 69,200千円)

・株式会社横浜国際平和会議場（パシフィコ横浜）に対する損失補償の設定

パシフィコ横浜の大規模改修の進捗に伴い、損失補償額を設定。

（５年度設定額：1,872,000千円（４年度設定額：2,340,000千円））

（設定期間：令和５年４月～９年３月）

1 団体の概要

<事業目的>

国際・国内会議及び学術会議等各種催物、国内外商品等の見本市、展示会を企画、誘致及び開催する。

<設 立>

昭和62年６月３日

<基 本 金>

7,565,000千円（うち、横浜市出資額：4,100,000千円 出資割合：24.4%）

2 団体の経営状況：令和３年度決算

・売上高 7,746,291千円 ・売上原価 6,882,501千円
・営業利益 9,704千円 ・当期純利益 △206,535千円

3 損失補償を行う特別な理由・必要性

大規模改修工事着手に際し、パシフィコ横浜のあり方検討を行った結果、改修工事はパシフィコが金融機関から借入を行って実施し、市は必要な支援を行うことを意思決定している。

4 対象債務の返済の見通しとその確実性

４年度は催事件数も回復し収支も好転してきている。引き続き、売上の確保及び経費削減に取り組み、９年３月までに対象債務を返済する見通しである。



横浜トリエンナーレ
YOKOHAMA TRIENNALE